

令和6年9月

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果について、昨年に比べ国語における全国平均との差が縮まりましたが、2教科ともに平均正答率が全国平均を下回っています。

中学校の調査結果については、数学における平均正答率が全国平均を5年ぶりに上回りました。今回対象となった中学3年生が、小学6年生だった令和3年度の調査結果と比較すると、全国平均との差が国語で2.6ポイント、数学で6.7ポイント縮まっており、小学校から中学校への学びの伸びがみられます。

【小学校の調査結果】

|       | 国語    | 算数    |
|-------|-------|-------|
| 熊野市   | 62.0% | 57.0% |
| 三重県   | 67.0% | 62.0% |
| 全国    | 67.7% | 63.4% |
| 全国との差 | ▲5.7  | ▲6.4  |

【中学校の調査結果】

|                         | 国語    | 数学    |
|-------------------------|-------|-------|
| 熊野市                     | 55%   | 55.0% |
| 三重県                     | 57%   | 53.0% |
| 全国                      | 58.1% | 52.5% |
| 全国との差                   | ▲3.1  | 2.5   |
| 小学6年生時の全国との差<br>(令和3年度) | ▲5.7  | ▲4.2  |

2. 各教科における特徴について

(1) 小学校

① 国語

- ・正答率は全問全国平均を下回っています。
- ・問題の内容については、「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる」問題や「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題、問題形式については「記述式」問題の正答率について、全国平均と大きな開きがあります。
- ・学習指導要領の内容では「話すこと・聞くこと」に課題がみられます。

## ② 算数

- ・一部の問題において全国平均を上回っています。
- ・除法等の計算問題は全国平均を上回っています。しかし、図形において「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる」問題や、データの活用において「示された情報をもとに表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる」問題の正答率は全国平均との開きが大きくなっています。
- ・学習指導要領の領域では「変化と関係」の領域に課題がみられます。

## (2) 中学校

### ① 国語

- ・一部の問題において全国平均を上回っています。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回っています。しかし、「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題の正答率は全国平均との開きが大きくなっています。
- ・学習指導要領の内容では特に「話すこと・聞くこと」に課題がみられます。

### ② 数学

- ・多くの問題において全国平均を上回っています。
- ・具体的には「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題や、確率、図形の証明問題の正答率は、全国平均を大きく上回っています。
- ・学習指導要領の領域では、4領域のうち3領域の平均正答率が全国平均を上回っており、特に、「データの活用」の領域が全国平均を大きく上回っています。

### 3. 児童・生徒質問紙調査結果について

#### 【児童質問紙(小学校:全国平均との比較)】

※○:全国平均を上回る質問項目

●:全国平均を下回るまたは上回っても課題として捉えられる質問項目

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合(以下同様)

- 将来の夢や目標を持っていますか 熊野市:88.5% 全国:82.4%
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか 熊野市:99.0% 全国:95.9%
- 学校に行くのは楽しいと思いますか 熊野市:88.6% 全国:84.8%
- 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか  
週3回以上 熊野市:65.6% 全国:59.5%
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか  
熊野市:89.5% 全国:82.5%
- 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか  
熊野市:88.6% 全国:83.3%
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 1時間以上 熊野市:42.0% 全国50.6%
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束をしていない。  
熊野市:21.0% 全国9.8%
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか 熊野市:81.3% 全国86.3%
- 国語の勉強は好きですか 熊野市:51.0% 全国62.0%
- 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか 熊野市:70.8% 全国83.2%

#### 【生徒質問紙(中学校:全国平均との比較)】

- 将来の夢や目標を持っていますか 熊野市:76.5% 全国 66.3%
- 学校に行くのは楽しいと思いますか 熊野市:89.4% 全国:83.8%
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考えて、工夫することはできていますか 熊野市:89.4% 全国:78.6%

○1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか  
「週3回以上」 熊野市:88.2% 全国:64.4%

○1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか 熊野市:75.3% 全国:64.8%

○国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか  
熊野市:84.7% 全国:76.7%

○数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか  
熊野市:63.6% 全国:57.2%

○1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか 熊野市:91.8% 全国:83.3%

●普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)  
2時間以上 熊野市:57.6% 全国 55.9%

●学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 2時間以上 熊野市:18.8% 全国 31.7%

●土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)  
2時間以上 熊野市:15.3% 全国36.2%

●国語の勉強は好きですか 熊野市:55.3% 全国64.3%

小中学校ともに「PC・タブレットなどの ICT 機器の活用」に関する問いに対して肯定的に回答している割合が高く、授業において、「考えたことの共有」「協力しながらの学習」など、協働的な学びの実現に向けたICTを活用した授業改善が進んでいることと、児童生徒がICT活用力の重要性や有効性を感じていることが伺えます。

小中学校ともに「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して肯定的に答えている児童生徒の割合が全国平均に比べて非常に高く、このこととともに「社会や他者への貢献」「学校が楽しい」「普段の生活で感じる幸せ」に関する肯定的な答えからも、自らの「Well-Being」実現に向けた意識の向上が伺えます。

小学校では「算数・英語の勉強は大切だと思いますか」という項目が全国を上回っており、児童の学習意欲の高まりが伺えますが、国語の授業で、「目的に応じて、自分の考えが伝わるように文章を書く工夫をする」「登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目して読む」等に課題が見られるため、これらの指導内容を児童がより意識できる授業改善が求められます。

中学校では「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という項目が全国を大きく上回っており、生徒が主体的に授業に臨んでいることが伺えます。また、国語の学習において、生徒が文章読解や表現について学習内容を意識できる授業改善が進んでいることが伺えます。

課題としては、小中学校ともに学校以外の学習時間が平日週末のどちらも全国平均を大きく下回っており、その要因の一つとしてゲームや SNS、動画視聴の時間で全国平均を上回っている等の調査結果が見られます。今後も学校と家庭・地域がこれらの課題を共有し連携した取組を進めるなかで、子どもたちが自ら意欲的に学習に取り組む「環境づくり」「動機づけ」が重要と考えられます。

#### 4. 学校質問紙調査結果から見えてきた傾向

全国学力・学習状況調査では児童生徒質問紙調査に加え学校における指導方法に関する取り組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問紙調査を実施しています。

その中で「各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか」「授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか」については すべての小中学校が肯定的に回答しており児童生徒一人ひとりの学習状況を丁寧に把握しながら、主体的・対話的な授業の実現に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることがうかがえます。

また、授業におけるICT機器の活用頻度や ICT 活用のための職員研修の機会は全国平均を上回っていますが、「調べ学習」「自分の考えをまとめ、発表・表現」「他者とのやり取り」等における PC・タブレットなどの活用については、学校間で差がみられるため、協働的で深い学びを実現するための ICT 有効活用について、引き続き職員研修と授業での活用を進めます。

## 5. 今後の取組について

熊野市教育委員会では児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着に向け、学力向上推進事業を軸とした研修事業を展開しています。5月には京都女子大学の水戸部教授を講師として招き、「『書く力』『読む力』を育む授業づくり」について研修を実施しました。8月下旬に行った学力向上研修会では、武庫川女子大学の森脇教授(前三重大学教授)を講師として招き、本年度の全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の授業改善の在り方について研修を実施しました。

また、市の研究指定を受けた学校が外部講師による年間を通じた指導を受けながら授業改善に努め、この成果を市内各校に還流して参ります。加えて、県教育委員会の学力向上事業の指定を受けた学校により、算数における習熟の程度に応じた1人1台学習端末等のICT機器を活用した効果的な指導方法について実践的な研究を進めています。

各校においても「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディチェック」の結果について、自校分析を行い、2学期以降の対策の検討・協議を行いました。今後は各学校の実践と分析で得た成果と課題を踏まえ、紀州教育支援事務所指導主事や市教育委員会事務局指導主事が学校訪問による授業研究を通して学校での研修体制の充実を目指します。これらの継続的な取り組みを続けるなかで、全国学力学習状況調査の結果を踏まえた具体的な授業改善、課題の克服に努めていきます。